

## 議事録

会議名	令和3年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会
実施日時	令和3年8月4日(水) 13:30~15:10
実施場所	加古川市役所 本館4階 企画部会議室
出席者	<b>【加古川市スマートシティ推進協議会】</b> 高野委員長 福田副委員長 破魔委員 山本委員 (WEB参加) 野方委員 吉岡委員 (WEB参加) 川向アドバイザー 中田アドバイザー (WEB参加) <b>【事務局】</b> 政策企画課 2名

### 会議の内容

司 会：事務局

配付資料：

「配布資料1：情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針 指標一覧表」

「配布資料2：令和3年度 スマートシティ推進担当 年間スケジュール」

「配布資料3：今後の加古川市版 Decidim の活用について」

「配布資料4：情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針」

「配布資料5：加古川市スマートシティ構想」

#### 1 はじめに

#### 2 議事(1) 情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針の進捗について

- ・事務局より、推進方針概要と KPI 達成状況について報告

(意見交換)

委員： 加古川市版 Decidim は世間から大変注目されている。普段、市政に参加しないような人が意見を出している印象である。参加者が爆発的に増えてはいないが、着実に進んでいる。Decidim に関しては、コード・フォー・ジャパンのチャットツールでも議論が活発になされている。

委員： ダッシュボードを活用した各種情報の可視化に関心を持っている。行政情報ダッシュボードをこれから推進し、市民にとってわかりやすい情報発信を実施していくことは重要である。

今後は、BI ツールを使って EBPM、エビデンスに基づいた政策立案の推進を図る必要があるが、BI ツールを使いこなせる人材の育成、確保が課題と考える。市の各部局で BI ツールの活用・人材の育成をどのように広める予定か。

事務局： 人材育成という部分に関しては、今年度、コード・フォー・ジャパンと連携し、データアカデミーを実施している。エビデンスとなるデータを自分たちで収集したり、作成したりして、施策を立案し、優秀な提案については、市長に対してプレゼンできるという内容である。4月から政策立案を始めて、半年程度ですべて完了させる予定となっており、各グループ2名ずつの少数精鋭で実施している。データアカデミーを通じて、データを活用することの

意義を庁内に浸透させることが目的である。

もう一つは、若手、係長級、管理職など複数の階層の職員を対象に、データを活用して政策立案し、職位間での意思疎通を図ることを目的とした階層別研修も実施している。

これらの研修を通して、データの必要性を意識付けし、自分たちで課題を考え、発見し、それらの解決に向けて施策を持っていくことができる人材の育成を目指している。ツールありきではなく、業務課題を見つける能力を養うことを目的としている。

各種情報の可視化については、可視化するようなデータが見つからないという課題もある。また、BI ツールを内部で活用するだけでなく、BI ツールを使って作成した画像データ等を Decidim などの ICT ツールを使って外部に発信することも必要ではないかと考えている。

委員： 防災研修・図上訓練をやっているが、ホームページから防災マップや冊子を確認しても情報が細かくわかりにくいと感じる人も多いようである。行政情報ダッシュボードを活用し、防災関係のレイヤーを重ね合わせ、表示させることで、わかりやすくなり興味を持っていただける人も多かった。ICT ツールを使って遊ぶという感覚もイベントなどでは必要かと思う。

事務局： Decidim では ICT を使ったまちづくりについて意見募集、アイデア募集もしていた。ICT ツールを活用した取組やイベント情報を Decidim で紹介していただければ、興味を持ってくれる方も増えると考えます。Decidim のようなオープンな場でイベント情報を紹介することで、コミュニティの幅を広げることが可能になるのではないかと考えています。

委員： Decidim で意見募集、アイデア募集のページがどこにあるのかが少しわかりにくい。TOP ページの概要や現在募集中の参加型プロセスなどはわかりやすくして良いが、一部導線がわかりにくいところもあるため、工夫が必要ではないかと考えています。

事務局： ICT を使ったまちづくりについてのページは、現在、意見募集を停止している。各ディベートで行政が何を求めているのかが明示されていないため、参加者が何を書いたらいいかわからないという意見があったため、現在、掲載内容を検討している最中である。

Decidim の導線については、外国から取り入れたプラットフォームであるので、変更するなどの対応は難しい。市の職員が工夫しながらページを作成しているが、すべて対応できるわけではないことはご了承ください。

Decidim はオープンソースなので、いきなり完成形を作ることは難しい。

委員： 「行政がプラットフォームを作っているため、見にくいところも一部あります。」と予め掲載していれば、参加者の納得を得やすいのではないかと考えています。

事務局： 参加者から意見をいただきつつ、徐々に改善したいと考えています。

### 3 議事(2) 加古川市スマートシティ構想の策定について

- ・事務局より、昨年度策定した加古川市スマートシティ構想について説明。

(意見交換)

アドバイザー：

加古川市スマートシティ構想は市民の意見を集約し、反映しており、よくまとめられている。

Decidim などの ICT ツールを使って、市民が「元気」だけでなく、「楽しく」

暮らすことを目指しているということをもう少しわかりやすくした方がよい。ICT ツールを使っているということを意識させないようなアピール・工夫が必要になる。幅広い世代の方に手軽に ICT ツールを使ってもらえるような工夫が必要ではないか。Decidim と言われても普通の人には馴染みがなく、とっつきにくく感じるはずである。

加古川市スマートシティ構想の実現には、情報の利活用を進めることができる人材育成が重要になってくる。

事務局： 職員だけでなく、市民の方にも抵抗なく ICT ツールを使っていただくことも重要であると考えている。また、オフライン派の人たち向けに出前講座やスマホ講座の実施も必要であると考えているが、行政だけで講座を実施するのではなく、地域の事業者や市民団体が自発的に講座を実施できるような仕組みを検討したい。

行政だけでなく、コード・フォー・ハリマなどの ICT に精通した人や高校生、大学生による講座を実施できれば、Decidim などの ICT ツールを広めることができ、幅広い世代が ICT ツールを使って「元気」で「楽しく」暮らすことが可能になるのではないか。

新型コロナウイルスワクチンの予約事務や昨年度の給付金の支払い事務の際も、オフライン派の人たちをいかに手助けするのが重要な課題であった。

委員： 総務省の補助などを活用して、事業者に頼らず地域の団体による講座の推進を検討してほしい。

事務局： 事業者だけでなく、地域の団体、学生による講座なども現在検討している。ただし、ICT ツールの活用を強要することは避けるべきであり、周りの人が手助けできる仕組みを構築する必要がある。

委員： Decidim の話を聞いて腑に落ちる人はある程度オンラインに精通している人である。Decidim などの ICT ツールに抵抗がある人、オフライン派の人も存在している。その方々の意見をいかに拾い上げるかが重要である。周りの人のサポートも重要であるので、Decidim であれば、大学生などがオフライン派の人たちに代わり、投稿するなどのサポート体制を地域全体で整備する必要がある。

事務局： オフライン派の人たちは意見を言えなくなったわけではなく、オンラインで市政に参加できる手段が増えたと認識いただきたい。

アドバイザー：

オンラインに精通している人がオフライン派の人たちの意見を吸い上げる会、「お助け会」を開くのはどうか。そうすることで行政の負担も減るのではないか。

委員： オンラインに精通している人もオフライン派の人たちとの接点がないため、交流を持ちたくても持てないという悩みがある。

事務局： 近年、オフラインのイベントの開催については、コロナの影響もあり難しくなっている。市民ニーズを把握する機会が少なくなっていることが、行政の大きな課題となっている。

Decidim を推進することで、オフライン派の人たちの意見は集めないのかと指摘いただくことも多いが、決してそうではなく、現状のチャンネルと併用して、ICT ツールも活用していくことを目指している。

#### 4 議事（3）今後の加古川市版 Decidim の活用について

- ・事務局より、加古川市版 Decidim について説明。

（意見交換）

委員： Decidim を知ってもらうことが最も重要である。他の自治体の子育て施策の広告を動画サイトで見たことがある。Decidim も同じように動画サイトで流すなど、周知方法を検討する必要があるかもしれない。市民が自発的に市のHPに情報を取りに行く従来の手段ではなく、受動的に情報を取得できるような広報の手段も検討する価値はある。

事務局： 本市のシティプロモーション担当と連携し、検討していきたい。

アドバイザー：

加古川市スマートシティ構想を基に取組を進められているが、スマートシティとは何か？を整理しておく必要がある。スマートシティとは ICT ツールを使うことではなく、ICT ツールを使った「即時対応性」ではないかと考える。新型コロナワクチンの予約事務や昨年度の給付金の支払い事務、台湾の事例であれば、マスク販売情報の提供など、多様な社会ニーズに市町村単位でも即時対応できるように、事前に準備をしておき、体制を整えておく必要がある。

Decidim については、市民の意見を吸い上げるものであるため、まずは多くの人に知っていただくことが重要である。そのためには、公共施設の待合室などに設置しているモニターに Decidim の紹介動画を流すことを提案したい。短時間の動画で良いので、Decidim のサイトの QR コードも付して流してみること検討する価値はある。

事務局： 加古川市の取組が一定の成果を上げ、注目されている大きな理由は、意思決定の早さを実現する内部の風通しの良さである。意思決定が早ければ「即時対応性」の実現も可能となると考える。

委員： Decidim と表記するのではなく、もっとわかりやすい名称を考えてはどうか。市掲示板（Decidim）などの名称を検討すべき。

事務局： Decidim を使って、名称を募集することも検討する。

アドバイザー：

市公式の SNS アカウントで Decidim の新しいページが立ち上がるたびに投稿するなどの工夫をしてほしい。Decidim の認知度を上げる方法としては有効ではないか。

#### 5 閉会

- ・事務局より、次回の協議会は、改めて日程調整を行う予定であることを連絡。
- ・委員間の議論を進めるために、リモートで意見交換できるシステムを検討する。